

自動車運送事業の働き方改革に関する関係省庁連絡会議（第5回）

「ホワイト物流」推進会議（第1回）

議事概要

開催日時：平成30年12月14日（金）17:10～17:30

場 所：官邸2階小ホール

出席者：

（自動車運送事業の働き方改革に関する関係省庁連絡会議）

議長	野上浩太郎	内閣官房副長官
議長代理	大塚高司	国土交通副大臣
	多田明弘	内閣府政策統括官（経済財政運営担当）
	北村博文	警察庁交通局長
	茶谷栄治	財務省大臣官房総括審議官
	坂口 卓	厚生労働省労働基準局長
	新井ゆたか	農林水産省食料産業局長
	島田勘資	経済産業省大臣官房審議官（商務・サービス担当）
	奥田哲也	国土交通省自動車局長
	森下 哲	環境省地球環境局長

（「ホワイト物流」推進会議）

座長	野尻俊明	流通経済大学学長
	齊藤 実	神奈川大学教授
	高岡美佳	立教大学教授
	遠藤信博	（公社）日本ロジスティクスシステム協会会長
	田村修二	（一社）日本物流団体連合会会長
	坂本克己	（公社）全日本トラック協会会長
	住野敏彦	全日本交通運輸産業労働組合協議会議長
	難波淳介	全日本運輸産業労働組合連合会中央執行委員長
	上田正尚	（一社）日本経済団体連合会産業政策本部長
	青山伸悦	日本商工会議所理事・事務局長
	金井 健	全国農業協同組合中央会常務理事
	笠原節夫	（公社）日本農業法人協会副会長
	貫 正和	全国交通運輸労働組合総連合トラック部会事務局長

議事：

（1）「ホワイト物流」推進運動の趣旨と推進方針について

○国土交通省自動車局長より、資料3により、「ホワイト物流」推進運動の趣旨と推進

方針について説明があった後、原案のとおり決定された。

## (2) 意見交換

「ホワイト物流」推進会議の各委員より、以下のとおり発言があった。

### ○齊藤神奈川大学教授

我が国では物流危機が叫ばれているが、その主な原因はドライバー不足であり、過酷な労働条件の下でドライバーが不足して物流危機が起きていると考えている。こうした状態を改善するためには、物流現場での長時間労働につながる不合理な状態をなくしていくことが必要不可欠である。

これまで、企業は物流コストの削減や利便性を追求してきたが、こうした物流の深刻な問題に関しては無関心であったと思う。このままの状態では物流危機はさらに深刻化していくことを認識する必要があり、物流における問題点を改善する取組を理解して、それを促進することは極めて重要と考えている。

### ○高岡立教大学教授

私は流通を専門としている。流通全般は国民の生活レベルを上げたり、あるいは経済活動のために非常に重要な分野だと考えているが、特に今回のトラック運送事業を初めとする物流は、国の経済発展に大きな影響を与える重要なインフラの一つだと考えている。

この業界が現在どのような状況にあるかを正確に理解し、そして関係者が連携して変革していく必要性を政府として訴求する取組は、非常に有意義なことだと考えている。将来にわたって持続可能な物流インフラを維持・発展させることは、全ての国民にとって有益である。そして、我が国の経済発展においても重要な位置づけにあると思うので、引き続き積極的に参画したい。

### ○坂本（公社）全日本トラック協会会長

本日は、我々トラック業界の職場環境の改善にこのような場を設けていただき、お忙しい中御参集いただいたこと、厚く御礼を申し上げます。

先般、この業界の働き方改革をしっかりと推進するため貨物自動車運送事業法改正案が作成され、労働組合の皆さんと二人三脚でやってきて、全会一致で一つの法案が成立したということを踏まえて、我々事業者も、さらに公共輸送機関として本当に地域、社会のためにやっていかなければいけないという思いである。

ただし、我々業界の自助努力だけでは限界があるので、お集まりの各荷主の皆様や、いろいろな関係の方々一堂にお集まりいただいた中で、「ホワイト物流」推進運動を推進していただけるということは我々にとって非常にありがたく、非常に意味があ

ることであり、一生懸命やっていかなければならないと考えている。

○住野全日本交通運輸産業労働組合協議会議長

私ども交通運輸産業にとって喫緊の課題である人材の確保に向けて、こうやって全ての関係者が連携・協力をするためにできたこの枠組みについては、大いに賛同するところである。

今後は、「自動車運送事業の働き方改革に関する関係省庁連絡会議」や「トラック輸送における取引環境・労働時間改善中央協議会」において、まさしく実効性のある議論がなされ、本会議でフォローアップしていくことが必要だと思っている。加えて、物流においてイノベーションの視点を取り入れることも必要ではないかと思っているので、よろしくお願いしたい。

○貫全国交通運輸労働組合総連合トラック部会事務局長

今回の「ホワイト物流」推進国民運動において、物流現場の現状を荷主や国民の皆様にご理解をいただき、トラック運送業界に働く労働者の実態をしっかりと御理解いただきたいと思っている。

加えて、トラック運輸産業が持続的に発展できるよう、産別労働組合としても訴えていきたいと考えており、この国民運動を盛り上げ、現場で働くトラックドライバーの労働環境改善に向けた運動をさらに進めてまいりたい。

○難波全日本運輸産業労働組合連合会中央執行委員長

トラックの現場では、ドライバーの高齢化と人材不足で、まさに物流がとまってしまうかもしれない状況が続いている。この状況を変えていくためには、恒常的な長時間労働を是正し、賃金水準を引き上げ、長時間労働に起因する過労死防止に取り組み、ドライバーの労働条件を魅力あるものにチェンジすることが必要だと思う。

物流を利用する一人一人の皆さんが、安全、安心、安定、そして信頼の物流システムを構築することを自分のテーマとして受けとめていただけるよう、そして人の集まる魅力あふれる運輸産業を目指して、この「ホワイト物流」推進運動に参加させていただきたい。

○田村（一社）日本物流団体連合会会長

私ども物流連は、陸・海・空の各モードを横断する団体として、業界が抱える共通の課題を取り上げた活動を行っている。特に、物流の生産性向上と、物流を広く社会、国民から等身大で見ていただく取組に力を注いでいる。

近年、トラック運送業はもとより物流業界全体に人手不足の波が押し寄せてきているが、今回の「ホワイト物流」の推進は、労働力の確保につながるだけでなく、物流

業の健全な発展と社会的地位の向上に資するものであると考えており、その目標が私どもの取組と軌を一にすることから、大変微力ではあるが、「ホワイト物流」の実現に向けて尽力してまいり所存である。

○遠藤（公社）日本ロジスティクスシステム協会会長

今回の「ホワイト物流」の活動に対して基本的に賛同し、これに対してJILSとしても積極的に参加をしてみたいと考えている。物流自体は、経済の基盤、さらには豊かな人の生活を支える非常に重要な基盤である、プラットフォームであると考えており、そういう意味では持続可能な活動とするとともに、利便性や効率性のさらなる進化が必要と考えている。

具体的に、この活動を推進し、全体最適としての価値を創出するためには、サプライチェーンを構成する製造業、流通業、物流業の各プレイヤーの連携が最も重要であると考えている。荷主の企業と物流企業の会員で構成されているJILSとしては、「ホワイト物流」に積極的に参加し、産業界とともに政府と連携しながらこれを推進してみたいと考えている。

○上田（一社）日本経済団体連合会産業政策本部長

経団連では、ちょうど今年の10月に、「Society5.0時代の物流」という提言を公表させていただいた。その中で、物流ネットワークの維持・発展に向けて、適正取引の推進、労働環境の改善、人材確保・育成策の拡充に取り組むとともに、やはり最先端の技術といったものを活用して、省人化、省力化、物流の革新を図っていくことが必要と訴えている。

経団連としても、このような場で関係者が一体となって事に当たることが非常に重要であると認識しており、ぜひ、本推進会議において議論を深めていければと存じている。

○青山日本商工会議所理事・事務局長

商工会議所は、現在、全国で515の地域に立地しており、125万の事業者を擁する地域総合経済団体である。その中でも物流は経済産業基盤を支える大きな社会基盤だと認識しており、持続可能な物流の実現というのが待ったなしだと認識している。その意味で、今回の「ホワイト物流」推進運動は、まことに時宜を得た運動であると考えている。

全国の商工会議所としては、荷主と物流事業者の双方を会員としており、適切な形で運動が根づくよう、その推進に協力してみたい。

○金井全国農業協同組合中央会常務理事

「ホワイト物流」推進運動の趣旨については、理解しているところである。他方、物流業界における働き方改革の推進に当たっては、流通段階でのコスト増等も想定されている。推進運動は企業、国民等、幅広い層に理解、協力を求めていくこととしている。このようなコスト増のしわ寄せが、荷主も含め川上から川下のどこかの段階に偏在しないよう、理解促進を徹底していただきたい。

我々JAグループは、農産物流通全体のコスト削減に向けて、物流業者と連携した拠点設置による積載率の向上、卸売業者、パレット会社等と連携した物流の一貫パレット化などを今実践しているところである。物流全体の効率化に向けて、引き続き、我々荷主サイドのこうした取組への御理解、御支援等もお願いしたい。

#### ○笠原（公社）日本農業法人協会副会長

我々が生産している農畜産物は質と量の確保が大変重要であるが、生産が天候に左右されるとともに、消費者からも常に鮮度や品ぞろえなどを求められている。そのため、フレッシュ、チルドや、少量の輸送が必要となるなど、トラックの輸送に負荷がかかる面がある。当協会としても、トラック運転者不足への対応は、農業分野の持続的な発展のためにも重要と認識しており、本会議に参加させていただくこととした。今後は、当協会の各種会議、セミナー等の場で、会員への働きかけを行ってまいりたい。

一方、物流コストの増加や取り扱いの規制の動きなど、農業界の負担も増加している。本会議を契機に、物流全体の合理化・効率化の推進をお願いするとともに、農畜産物のきめ細かな物流システムの構築に支援をいただくようお願い申し上げます。

（報道関係者入室）

#### ○野尻座長

御承知のとおり、物流は経済の動脈に例えられるように、産業活動、国民生活に極めて重要な役割を担っている。そして、物流活動の大宗を占めているのがトラック輸送であることは周知のとおりである。我が国のトラック輸送産業においては、従来からさまざまな問題が指摘されていたが、荷主の皆様、物流事業者の皆様がパートナーシップを確認しながら、共同で種々の取組を行ってきた。しかしながら、近年の物流危機の到来で、幾つかの喫緊の課題が一挙に顕在化しており、中でも、トラック運転者の不足問題は深刻化の一途をたどっている。

これに対応すべく、既に野上内閣官房副長官を議長に関係省庁会議が設けられ、自動車運送事業の働き方改革について一定の対応が図られているところであるが、より一層の促進が求められている。こうした中であって、今般、官民を挙げた取組として「ホワイト物流」推進運動が行われることになったことは、まさに時宜を得た、大変

意義のあることと考えている。

本日、ここにお集まりの委員の皆様は、物流、トラック輸送に大きな関心と深い知見をお持ちの方々であり、それぞれのお立場からこの運動への御理解と御協力を賜りたい。

#### ○大塚国土交通副大臣

本日は、年末の御多忙のところ、「ホワイト物流」推進会議に御出席いただき、トラック事業を所管する国土交通省の副大臣として厚く御礼を申し上げます。

深刻化するトラック運転者不足を解消するためには、トラック輸送の生産性の向上や働きやすい環境の整備が必要であり、関係者が連携した取り組みが必要不可欠である。このため、国土交通省としては、現在、加工食品物流や紙・パルプ物流といった荷物の種類ごとの対策などを進めているところであるが、これに加えて、本日の推進会議では、荷主企業や物流事業者などの関係者が互いに協力し、物流プロセス全体でトラック輸送の生産性の向上や働きやすい環境の整備に向け運動を展開していくことになった。

ぜひとも、皆様方におかれては、これから始まる「ホワイト物流」推進運動を強力にリードして、サポートしていただくよう、よろしくお願い申し上げます。

#### ○野上内閣官房副長官

本日は、「『ホワイト物流』推進会議」と「自動車運送事業の働き方改革に関する関係省庁連絡会議」の合同会議を開催した。「ホワイト物流」推進運動のスタートに当たって、野尻座長を初め、本日御出席の皆様の御協力に対し、心より御礼を申し上げます。

先ほど事務局から説明があったように、近年、トラック運転者不足が深刻化している。また、先週、貨物自動車運送事業法が改正され、トラック事業者が関係法令を遵守できるよう荷主が配慮する義務の新設や、あるいは荷主勧告制度の強化、トラック事業者が遵守すべき事項の明確化等が行われたところである。

このような状況の中で、国民生活や産業活動に不可欠な物流機能を安定的に確保するとともに、我が国経済のさらなる成長に寄与するために、トラック輸送の生産性の向上、物流の効率化や、多様な人材が活躍できる働きやすい労働環境の実現に関係者が連携して取り組む「ホワイト物流」推進運動への期待は大変大きいものだと考えている。

今後は、本日決定された方針に基づき、鋭意準備を進めて、本年度中にも賛同企業等の募集が開始されることになる。政府としても、できるだけ多くの皆様はこの運動に積極的に御参加をいただき、具体的な取組を進めていただきたいと考えている。本日お集まりの皆様におかれては、運動の拡大に向けて御尽力いただくよう、よろし

くお願い申し上げます。

また、次回の関係省庁連絡会議は来年5月ごろを目途に開催して、本年5月に策定した政府行動計画のフォローアップと計画の見直しを行う予定である。関係省庁においては、施策を着実に進めるとともに、さらなる充実・強化について検討するようお願いする。

(以上)